ロードス島戦記

Record of Lodoss War
the Lady of Pharis

ファリスの聖女

II

原作 水野 良　作画 山田章博

Record of Lodoss War
the Lady of Pharis
II

Record of Lodoss War
the Lady of Pharis

Art by
Akihiro YAMADA

Based story by
Ryo MIZUNO

STAFF

BOOK DESIGN
BE-ENTO

EDITOR
Makoto YOSHIDA

EDITORIAL DESK
Hiroko KAI

BOOK 1 Original EDITOR
Satoko IDO

Record of Lodoss War
the Lady of Pharis

さっさと
魔神どもを
かたづけて
しまえと？
竜王めが
そう言ったか？
ふふ…
御意
御開門！

ヴァリス神聖王陛下
直き直きの
お出ましにござる
入城の可否や
いかん？
は！
しかし…
待て
急いては
ならぬ
程なく先に発った
使者が到着しよう
それまで城外に
露営して待つ
ここで礼を失しては
後の評議にも
水を差しかねまい
お待ち
あれ！
先達
つかまつる
おお
マイセン公の
御使者か
御安着
大慶に存知ます
いかなる魔法力を
用いられたか
我が速歩馬に
勝る迅速

殿下！
何？
ヴァリス王が？
は！
使者としてお遣わしになったモードック無畏侯の先達で入城の可否を尋ねております
どういうつもりだ!?
礼装の用意！
広間をしつらえ廷臣を集めよ！
本来ならばご城下に逗留し先に使者を送らねばならぬところ
非常の折ゆえ急の伺候と相成った次第です
ご寛恕あれ

非常の折 …と 申されたか？
さよう
貴国とヴァリスの 穏当ならざる 将来に対し 評議に参った
お気に召さねば 和議の申し入れと 思っていただいても 結構です
わかり申した では失礼ながら 太守の間へ お移りいただき たい
ところで
聖騎士の同席は ともかく そちらの騎士殿は？
所領を持たぬ 流浪の戦士です
ゆえあって同道 願った
!
ご案じ 召さるな
この座は 失礼申し上げる
別室を拝借して しばし休息を 賜りたい

これでよい
これで…
モスの統一も
諸王国の
決起も真近

後は…
英雄が必要だ
おおい！
何だ？
北の方に土煙が上がってるぞ
何だか知らねえが
さっきどえれえ地震があったからなあ
あ？
マッ…
マーファの神官戦士団だ！
ドワーフの軍隊も一緒に！

フラウスさんだ！
みんな
フラウスさんが
マーファの神官戦士団と
ドワーフの軍隊を連れて
帰ってきたぞ！
村の人たちの
喜ぶ声が
聞こえる
ようだ
大地母神の
奇跡を起こした
ニースは倒れ
ベルドは
名もなき狂気の神に
魅入られた
私にどうしろと
言うの
無力な私に…！
至高神！

聖騎士の装りをした者が魔神と共にご領内で狼藉をはたらいたと申すも魔神の謀であろうと思っています
マイセン公
我がヴァリスは王も臣民も等しく正義と秩序の至高神を奉ずるもの
武力によって貴国を侵掠する意図はござらん
神聖王陛下
それでハイランドに何をせよと？
何卒…
モスの諸公をまとめロードス諸王国連合会議の実現にご助力願いたい
キュ！

マイセン公!!
それでは
トポトポ
そうとっても
よろしいか？
我が小国に
ヴァリスは膝を
屈する
あるいはこの
マイセンが
モスの公王たりと
貴国はお認めに
なる
貴殿が
王政執権の
名乗りを
上げられることに
ついてもまた
然りなり
もとより
モスの選帝会議に
口を出すつもりは
ござらん
コトッ
その大軍をもって
この機に兵を挙げ
覇王たらんと
戦をおこせば
それこそ魔神の
思うつぼ
またハイランドの
もとに
束ねられたモスは
ロードス一の大国と
なりましょう
ヴァリス王が貴殿の
城にあるということは
これ以上
望むべくもない人質を
とったも同然
貴国がヴァリスとの
盟約をとりつけたと
諸公に公言するも
自由
惜しむ余命でも
ござらんが
この老いぼれの
身柄
ロードスの平和の為に
使うことをお考え
いただけまいか？

竜太子殿下
人に無畏侯と仇名されるこのモードック
神聖王陛下の深意に触れ初めて畏敬の念をおぼえました
もし殿下がヴァリスに対しハイランドの国史に消えぬ汚点を残す挙に出られるお考えなら
この身を二つに裂いて両国に忠誠を尽くす覚悟
人質とはよくおっしゃられたものだ
人質をとられたのはこのマイセンでありましょう
我が頼みの朋友モードック無畏侯を既に味方につけておられたとは…

殿様！
俺たちゃ東のウズって村のもんでがす
街道でゴブリンとやり合ってんのを聖騎士の人たちに助けてもらったんで…
放せ！
放してくれ!!
無礼者 城中だぞ!!
騒がしいぞ 何事か？
控えよ 直答はならん！
うるせえ！
どうでも殿様に話さなきゃなんねえことがあんだよ！
かまわん
ウズ村の者が何の用だ？
殿様！
マイセン竜太子様!!

鏡の森が魔神たちに
やられて
しまったんです
軍隊…
軍隊を出して
下せえ
鏡の森が？
森の黄金樹を
魔神どもが
穢しちまったんでさ
村の穀物倉ァ
ゴブリンどもが
狙って来るなんざ
ちょくちょく
あったけど
今度なァ
訳が違うんで…
それを食った
動物もバタバタ
死んでやす
そのせいで
そこいらの森ァ
真っ赤んなって
枯れだして
おまけに腐った土地は
どんどん広がって
いってるみてえ
なんでがす
村の娘っこが
取って来た木の実や
植えた種は
みんな腐ってやがるし
このままじゃ
俺たちみんな
村を捨てて
…いんや
国から逃げ出さねば
なんねえ

お願いです！
俺たちここで
殺されても
かまわねえ
どうか軍隊で
魔神どもを
やっつけて下せえ!!
わかった
下がって休め
後ほど兵に
村まで送らせよう
あっ…
ありがとう
ございます!!
神聖王
陛下

モスの内乱は私が生まれた時から続いている
私は諸公ほど領土争いにも王位にも興味が持てなかった
できれば小公国の太守として可もなく不可もない一生をやり過ごそうとそう考えていました
だが今は無性に心が騒ぐ
何かやってみたい気になっている
金鱗の竜王め魔神どもを倒せと言ったそうだな？
オ・フローリン師
は！
奴の言い出したことだ
手伝わせてやるか…

さあさあ
料理を
もっと沢山！
お酒もありったけ
持って来て
ちょうだい！
申し訳
ありません
村長の奥様
こんなに
大勢で
押しかけて
しまって…
いいえ
心強いわ
あの人たちは
アセスという
村から…
ほら
夫が亡くなってから
私がずっと代わりを
務めて来たの…
本当のところ
どんなに
心細かったことか

それに山の端の松明が見えて？
近くの村から沢山の人たちが魔神と戦う為に集まって来てるのよ
皆さんが来て下すったのを知ってね
フラウス殿
我らは夜が明け次第マーファの施療院にニース様をお連れします
このままでは本復は覚束ない
何せ女神を降臨させた司祭を癒すなど未聞のことですから
そうですか…
では
どうかよろしく
無論です
この優れた少女司祭はマーファの宗史に生きながら伝説となるでしょう
そしてあなたも
私が？

ニース様が
ファリスに聖女がいると…
あなたの勇気と行いにならうべきだと
そして私は彼女の孤独を癒すために出撃するのだ…とも
私とて森を離れたくはなかったが
エンディカが人間に囚われていると聞いては放ってもおけん
欲望にかけられて魔神を解放するような愚かな生き物だ
ご案じあるな 戦える者は残していきます
できれば鏡の森にとどまり黄金樹の様子を見ておきたかったのですが…
任せておけばよい
今 族長が帰らずの森の長老と強い精霊力で守っている
あの古代樹の生命は精霊界に根ざすもの
大地母神の力で黄金樹を回復させることはできん！

一体　人間どもに
何をされたか
知れたものでは…
そんなことを…
あなた方は
まだそんなことを
考えているの
ですか!?
なっ…
何!?
少なくとも
人間はその
愚かな仲間の
したことを
償っている!
見るが
いいわ
あの松明の
列を!!

あれは全て
人間です！
魔神と戦う為に
集まって来た人々
です！
エルフほど
長命でもなく
ドワーフほど
強い体も持たない
人間たちです!!
あの松明の前に
跪くがいい！
恥じるが
いいわ!!
わしらの負け
だよ
エルフよ！
その通りです
兄上

エンディカ…
さあ エルフ戦士 わしの手を 取れ
そして 天地に等しい 寿命をもつ エルフの娘よ
命を惜しんで 語り継いで いくがいい
魔神戦争で 人とエルフと ドワーフは
心をひとつにして 戦ったとな…
ベルド…

皮肉なものね
人間だの人間じゃないのって…
当の魔神にはそんな区別なんかありはしないのに
ヴァリスの聖騎士隊長ファーン殿はこの中においでか!?
ファーン殿！
マリエル？
私に何か？
ハイランドの伝令使です
マイセン竜太子殿下のもとへ直訴に参ったこの村の者二名からここに貴殿がおいでだと聞きました

神々の世界のことだ魔術師の思惟が及ぶところじゃあるまい
そちらの専門じゃないのかね？
お願い何か考えてベルドを救う手立てはないの？
ウォート
天才魔術師
大賢者
二名…？
二名ですって？
今はもう失われて久しい
名もなき狂気の神…
古代王国の時代わずかに広まった神と教えだわ
そんな黒エルフが棲む場所といえば…
黒エルフの中にもまれにその神に仕える闇司祭がいると
鏡の森のエルフが言ってたね

そうだ
妖魔と人間が
混然と暮らす
邪悪の島
暗黒の島
マーモ…
暗黒神ファラリスの
大神殿があり
大地母神と
相討ちした
破壊の女神
カーディスの
肉体が
石化したまま
今も眠っているという
暗黒神たちの
住居を
たずねるなら
ここほど
相応しい場所は
ないだろう
私たちが傭兵として
カノンの南面守備隊にいた頃
部隊の中に
ベルドが
闇の森の蛮族の出
じゃないかと
噂する者があった
確かめた訳じゃ
ないが
そうであっても
不思議はないと
私は思っている

暗黒の島
マーモ…
そうだ
妖魔と人間が混然と暮らす邪悪の島
暗黒神ファラリスの大神殿があり
大地母神と相討ちした破壊の女神カーディスの肉体が
石化したまま今も眠っているという
暗黒神たちの住居をたずねるならここほど相応しい場所はないだろう
私たちが傭兵としてカノンの南面守備隊にいた頃
部隊の中にベルドが闇の森の蛮族の出じゃないかと噂する者があった
確かめた訳じゃないがそうであっても不思議はないと私は思っている
闇の森の蛮族が使う剣技は独特で奇妙だ
「ルナティック・ダンス」という狂気を誘う暗黒魔法の振りによく似ているんだよ
ベルドがその使い手だと…？
わからん武術には疎くてね
だが蛇の道は蛇さ
ここいらで狂気の神の魅惑に抗う術を探すより手っ取り早いかもしれない
行くわ
マーモへ

闇の森の蛮族が
使う剣技は
独特で奇妙だ
「ルナティック・ダンス」
という狂気を誘う
暗黒魔法の振りに
よく似ているんだよ
ベルドが
その使い手
だと…？
わからん
武術には
疎くてね
だが
蛇の道は蛇さ
ここいらで
狂気の神の魅惑に
抗う術を探すより
手っ取り早いかも
しれない
行くわ
マーモへ

わずかな
希望が
あるなら…
生臭い毛皮に
くるまり
獣の肉を
喰らい
泥水を啜り
最も深き迷宮と
どちらが
ましだろうね？
昼も夜もなく
襲いかかって来る
妖魔や魔獣と闘い
時には
狂戦士となった
ベルド自身とも
闘わねば
ならんのだよ？
辛い旅に
なるよ
ファリスの聖女では
暗黒の島で
生きることは
できん
では
フラウス
あんたも
蛮族の女に
なることだ
フラウス

神聖王陛下が私を待っておられる
直ぐハイランドへ向けて出立したい
皆にも済まないのだが
その…
ファーン
輝ける戦士
あなたが神聖武具に身を包み
聖騎士たちを率いて魔神を討つその時を
陛下お一人じゃない沢山の人々があなたを待っているわ
私には少し時間を下さい

前よりも強く あなたに 至高神を 感じる
私もベルドも 武骨で　あなたを 貴婦人として 扱うことが できなかったが
フラウス
何よりも 一人の女性だ
「フラウスは 堕ちました」 と…
必ず還って 来ます
一緒に 戦いましょう
行ってらっしゃい
でも ファリス神殿の 誰かに消息を 尋ねられたら

狂気の神なんかに渡したりするものですか
この呪われた島は偉大な王が現れるのを待っている
ベルド
ロードスに永遠の平和を

カララ
愚かしさが
闇の中で
魔物となり
過ちが闇より
魔物を呼び
出した
世界は
暗黒の飛影に
取り籠められ
天は低くして
風は死んだ
吟遊詩人は悲歌し
嘆きを
ほしいままにする
車馬と人の影は
絶え
戦い破れし国の果て
夕木枯らしの轟く
中に

愚かしさが
闇の中で
魔物となり
カララ
過ちが闇より
魔物を呼び
出した
世界は
暗黒の飛影に
取り籠められ
天は低くして
風は死んだ
車馬と人の影は
絶え
戦い破れし国の果て
夕木枯らしの轟く
中に
吟遊詩人は悲歌し
嘆きを
ほしいままにする
「ああ
風長く影長く
生々流転の
時は止む
私の希望を歌う声は
烈風に奪われ
惨たる薄暮は
寂寞をきわめた
かしこをさまよう
獣の群れは
何に逐われるものぞ

「ああ
風長く影長く
生々流転の
時は止む
私の希望を歌う声は
烈風に奪われ
惨たる薄暮は
寂寞をきわめた
かしこをさまよう
獣の群れは
何に逐われるものぞ」

だが
暗黒と戦うために
光は集まった
彼方見よ
遠音を聞け
夜の次に
清麗たる朝の陽が
訪れるように
祈りの如く
天に指し上げられた
剣に躍る銀光は
やがてまとまり
希望の太陽となった
人は立ち上がった
その手に剣を持ち
エルフは立ち
上がった
輝ける森の奥から
弓を取って
ドワーフは
立ち上がった
つち打つその手に
斧を持ち替え

奥つ城もなく
絵姿も残さぬ
民びとの行軍
その往き過ぎるに
従い
花は咲き
はつ夏の光もて
緑は輝きわたる
ひたむきに
命の謎を
美しくする

かくして
光は暗黒を
切り裂き
勝利した
森で
山で
平野で
そして海で
空で
魔物は
闇に逃げ帰る

かくして
光は暗黒を
切り裂き
勝利した
森で
山で
平野で
そして海で
空で
魔物は
闇に逃げ帰る
そこは
魔物の聖地
世界で
最も深き迷宮
その秘所で
魔神の王は
呪いを
世界に送っていた
暗黒の玉座に
つき
邪悪なる
右手を上げて

そこは
魔物の聖地
世界で
最も深き迷宮
その秘所で
魔神の王は
呪いを
世界に送っていた
暗黒の玉座に
つき
邪悪なる
右手を上げて

不吉な暦の
冬の時代が
果てなく
続こうとしている
闇が再び
光に勝ろうと
している
コッ!

あ…
!
これは…
ファーン卿
フラウスを
背信の徒で
あると？

そうだ
カノンの神殿から知らせが届いた
ルードの港から赤い髪の戦士とともに暗黒の島マーモへ渡ったそうだ
諸国では民が決起しつつある中で
勝手に戦列を離れ神官衣すらまとわず男と一緒にだ!
醜聞だ
堕落と言うのだよそれを
ただちに神官戦士長の任を解き市井に戻すべきだ
恐れながら
これは異端審問でありましょうか?
ジェナート?

吟味を受ける者が
不在の審問など
これこそ醜聞
ジェナート！
大司祭様の
御前で…
皆様は
ご記憶か!?
十八年前の
雪の朝を
ボロの産着に
くるまれて
神殿の外に
捨てられていた
女の子を
凍え死にしても
不思議では
なかった運命を
フラウスは
生き延びたの
です
これこそ至高神の
御恵みと
喜びあったことを
お忘れか？
そして彼女は
学び　鍛え
信じ
少女の身で
神官戦士長に
任ぜられ
ました

フラウスを背信者と仰有るなら
なぜ彼女は神聖魔法の力を失わないのです？
なぜ以前にもいや増して至高神の加護厚き戦士として戦っていられるのです？
魔神との戦いに臨み命のやりとりの中で彼女の味わった絶望と恐怖
そしてついに捨て去ることのなかった希望の逞しさは我々のそれを遥かに凌駕していることでしょう
…
鏡の森の戦いでマーファの少女司祭はその身に大地母神を降臨させたと聞きます
だがフラウスにはその力がないと仰有られるか？
フラウスは…
既にその身に至高神を現して久しいのです
いえ
最早至高神の彼方を見ているのかもしれません

平和と秩序と正義において
ラウマ・アドニア・モイル・デ・ファリス……
モイロス・ラーム……
大司祭様？
騎士隊長ファーン様が…
どうか聖戦の祝福を…
義勇兵たちが諸王国連合軍と合流する為
明朝ロイドを発ちます
聖戦(ジハド)…

大司祭様？
カタ カタ
カタ
異例のことではあるが
遷座の時が来たようだ
あなた方の中にファリス神殿最高司祭となり
聖戦の祝福を授けようというものはないか？
司祭ジェナート
あなたはどうか？
このような時代には信仰厚く力ある者が必要なのだ
よい
しかし！
ジェナートは助祭長から司祭になって日も浅く…
私はもう疲れた
これ以上恥をかかせんでくれ

至高神の
御心のままに…
だが友よ
今は弔いの
鐘を打ち鳴らせ
恐怖を葬り
臆病に
墓標を
打ち立てよ
うたがうなかれ
黙すなかれ
泪ぬぐわれる日は
今日のひと日の
その先に

百人隊？
さよう
この一年我々は善戦したといえよう
だが魔神王在る限り奴らの戦力は無尽蔵だ
しかし…
無謀だ たった百人で…
ドワーフの大隧道を抜き最も深き迷宮に攻め入って
ひと息に魔神の聖地を叩く

百人隊？
さよう
この一年我々は
善戦したといえよう
だが
魔神王在る限り
奴らの戦力は
無尽蔵だ
ドワーフの大隧道を抜き
最も深き迷宮に
攻め入って
ひと息に
魔神の聖地を
叩く
しかし…
無謀だ
たった百人
で…

その百人が敗退したらどうなるのだ!?
歴史が変わるだけのこと
そ…そうだ
ロードスがマーモになると言えばおわかりいただけようか？
古代魔法王国が蛮族に亡ぼされたように
人の時代が終わり魔神の歴史が始まる
大使
ならば我が国（アラニア）最高の建築家を同行させよう
建築を専（もっぱ）らにするものであれば迷うこともあるまい
方々もご存知であろう
王都アランの見事な建造物の数々をその優れた技を
迷路に迷い罠にかかり戦力を分断されて徒（いたずら）に屍を重ねるばかりです
大隧道（トンネル）も最も深き迷宮も大部隊を投入できる場所ではありません

もし功名心を
お持ちなら
捨てていただき
たい
これは
政治的勝利が
目的の戦では
ありません
それに貴国の
王都アランは
ドワーフの手に
なるものでは
ありません
でしたか？
殊に最も深き迷宮は
古代魔法王国が
遺した
魔術的建築の中でも
最大のもの
そこかしこに
魔法の罠が
しかけられ
複雑なことも
尋常ではない
ほう
魔術師殿は
彼の迷宮を
よくご存知の
ようだ
まるで自分が
魔神を解放
したと
仰せられん
ばかりだな？
その通りさ

我が王国に人間やエルフ共を入れることになろうとは…
気の重い話だ
さあ
もうそのくらいになさいませ
いずれにしても石の王国からロードス全土に通ずる隧道を塞ぐことが出来れば
不意打ちだけでも防げましょう
魔神に居座られている方がましですかフレーベ？
いたく傷つけてくれる
しとやかな娘だと思うておったがなニースよ
次の会合は明晩ここで刻は追って知らせます
では直ちに人選にかかりましょう
会盟の諸卿もよろしいか？

ニース殿
貴女は休んで
おいでなさい
まだ回復して
日が経って
いない
まあ！
皆さんで
そのように病人扱い
なすって
これでも村の人たちに
まじって鍬を使うことも
あるのですよ
鍬どころか…
戦場で剣を揮う
あなたを見て
肚を潰しました
間に合って
くれましょうか？
ベルドと
フラウスは

一年…
RAIDEN
FLAIM
ALANIA
VALIS
MOSS
KANON
MARMO
ロードス島 南端
暗黒の島 マーモ
お二人は…
絆を強める旅に出ていらっしゃるのですから
きっと前よりも強くなってお戻りになりますよ

きっと
前よりも強くなって
お戻りになりますよ
お二人は…
絆を強める旅に
出ていらっしゃるの
ですから
RAIDEN
FLAIM
ALANIA
VALIS
KANON
MOSS
MARMO
ロードス島 南端
暗黒の島 マーモ
一年…
随分と苦労した
ようだねえ
しがない
蛮族の占い婆を
探すために？
暗黒神の神殿を
訪ねる訳にも
いかず
探しつかねて
おりました
闇の森に
暗黒神の伝承に
詳しい方が
住んでいると
聞きましたので…
誰に
聞いたって？
オーガーでも
締めあげて
口を割らせたの
かい？
まあ
いいよ
確かにここいらの
部族は破壊の女神
カーディスを
祀っていた

随分と苦労したようだねえ
しがない蛮族の占い婆を探すために？
暗黒神の神殿を訪ねる訳にもいかず
探しつかねておりました
闇の森に暗黒神の伝承に詳しい方が住んでいると聞きましたので…
誰に聞いたって？
オーガーでも締めあげて口を割らせたのかい？
まあいいよ
確かにここいらの部族は破壊の女神カーディスを祀っていた

その昔
族長だった女は
カーディスの司祭
だっとも言うよ
シャドーシティから
来たのなら途中
城を見ただろう？
あの城もその
女族長が
築いたのさ
だけど
もう昔
昔の話
だよ
それに…
この男には
何も術を施す
必要はないね
よっぽど気に
入られていた
ろうにさ
もう狂気の神は
どこにも感じ
られない
お前さんが
この男に
ずっと付いて
いたのかい？
はい

お前さんを傷つけたくなかったんだよ
その心が強くてとうとう狂気を退けた
それでだろうね狂わずに済んだのは
そういうことさ
口の減らん婆ァだ
用がないんならもう行くぞフラウス
ありがとう
お婆さん
さっさと連れてってやり
戦う場所へね
その男は王気が強過ぎるよ
王…気？
お婆さんにはそれがわかるの？
言ったろう？あたしはただの占い婆さ

だが
赤い髪の戦士
お前は
お前の名で呼ばれる
土地と
その土地をお前の名で
呼ぶ民を得る
だろう
時の中に
その名を残す
白い騎士
…?
おや?
お待ち
もう一人
いるね

分かっている
未来までを
ただ生きる
なんぞ
願い下げだ
言わんでも
いい
分からんから
面白いと
いうことが
世の中には
一杯あるさ

ファイロ
あなたなら
百人隊に志願すると
思ってたのに…
笑ってくんな
俺も初めは
そう考えたさ
けどよ
戦の仕方も
知らねえ俺が
ついてったとこで
足手まといになる
ばっかりだ
リックの弔い合戦にも
何にもなりゃしねえ
リック！
あ…はは
だらしねえな
や…
やられちまった
喋んな！
いッ今
てってっ手当て
を…
いいんだ
もう
助からねえ
ファイロ…
これ
マリエルに
返しといてくれ
いい男見つけて
可愛い嫁さんに
なれっ…て
そ…そいで
いつか生まれる
マリエルの子供に
それを持たして
やるんだ

あん人ァ一生懸命やってくれたんたから…
あのファリスの女神官様ァ怨んじゃいけねえ
そっそれから…俺がそれ持ったまんま死んじまうからって
霊験あらたかだぜぇ
なっ…何せ本当に聖騎士が救けにきてくれたもんなぁ
俺が…
弱かっただけなんだから…よ
だから俺はもっと強くなる
強くなって村を守るよ
こんなことも一遍繰り返さねえ為にさ
格好悪いけど生きてくことに決めたんだ
そうね
きっとわかってくれるわリックも…

ここが
石の王国だ
選ばれし九十八名の
戦う者たちよ
ここには
王族の子弟も
おられよう
名のある騎士も
昨日まで農具を
手にしていた者も
あろう
そして　ここから
最も深き迷宮の
暗黒の玉座までが
最後の決戦場となる
途中には魔神どもが
無数に巣くい
魔将との闘いも
避けられまい
だが我等は
ロードス最後の
希望
一人でも多く
生き延びて
目指す魔神王を
討ち果たす！

ファリスの民
あなた方は聖戦の祝福を受け今や恐れを知らぬ戦士の筈
マーファの民よ
あなた方は大地母神の御姿を眼のあたりにし既に至上の祝福を受けられた
ラーダを奉ずる魔術師には善き知恵の助けが
マイリーを信ずる者は比類無き勇者となり
チャ・ザの僕には幸運が味方しよう
そして我等は信ずるものの別を越え
ただひとつの目標の為に馳せ参じた!
ロードスに平和を!!

魔神の屍!?
頭上より奇襲!!

ファーン！
上位魔神だ!!
魔術師を
中心に円陣！
魔術師は
魔法の壁を!!
魔力の根源たる
マナよ！
刃とあらゆる力の前に
見えざる楯とならん！

円陣のまま
前進!!
十名 私と
残れ!
後方を
喰い止める!!
我等が!
ウンディーネ
佳麗なる
水乙女たちよ

十名 私と残れ！
後方を喰い止める！！
円陣のまま前進！！
我等が！
ウンディーネ
佳麗なる水乙女たちよ
汝等のまといし薄衣を大爆布と変じて
死の舞のうちに取り籠めよ！

汝等のまといし薄衣を大爆布と変じて
死の舞のうちに取り籠めよ！

我等の精霊力では
永くは保たん
水壁が崩れた刹那
急襲されよう
承知した
来る!!

どうやら
遅れを取らずに
済んだようだな
ええ
?

ベルド！
フラウス!?
その姿……
やはり
そうか
あの時の…

最早我ら二人だけに
なったようだな
カーラよ
魔法王国
カストゥールの威光も
地に堕ちたものね
サルハーン公
私は警告した
筈だわ
魔法は
それを使役する者の
分を弁えぬ
望みの為に
今　蛮族の
剣の下に亡び
去ろうとしている

だか　いつの日か
カストゥールの力は
蘇る時を迎えよう
負け惜しみね
さあ
私は魔法王国の
貴族として
最後の務めを果して
参りましょう
彼等蛮族か
私たちへの恐怖と
憎悪を忘れることの
ないように

ここはまだ
ほんの入り口だ
先へ
行くぞ！
ようこそ
蛮族の勇ましき
男よ
何を
している！

なあ
さっきから考えていたんだが
ん?
ここが最も深き迷宮じゃないのか?
我らが道案内を務めておって迷う気遣いはないわい
休まず進めば二日で抜けられる
もう丸一日歩き通したというのに
一向に出口に近づく気配がない
ドワーフの都だとは聞いていたがこれではまるで迷路だ
ドワーフ以外の者にとってはな

なあ
さっきから考えていたんだが
ん？
ここが最も深き迷宮じゃないのか？
我らが道案内を務めておって迷う気遣いはないわい
休まず進めば二日で抜けられる
もう丸一日歩き通しだというのに
一向に出口に近づく気配がない
ドワーフ以外の者にとってはな
ドワーフの都だとは聞いていたがこれではまるで迷路だ
そう願いたいものだ
蟻でもあるまいに群れて土の中をゾロゾロ歩くなど…
ここまで来ておきながらいがみ合いは無用ですよ
魔将との闘いが待っているのです
異心をもって臨めば要らぬ犠牲を出すことになりましょう

ここまで来ておきながらいがみ合いは無用ですよ
魔将との闘いが待っているのです
異心をもって臨めば要らぬ犠牲を出すことになりましょう
そう願いたいものだ
蟻でもあるまいに群れて土の中をゾロゾロ歩くなど…

魔将（アークデーモン）か
貴様 見たことがあるか？
冗談じゃない！
そんな奴と出会ってこの命があるもんか！
いや…
その…
手強いとは聞いている
程なく会わせてくれるよ
そ奴にな
玉座でわしを待ちわびておる
玉座で？
なぜそうとわかる？
奴が勝者でわしが敗者だからさ

これは……陛下
そうだ わしだ
皆も息災のようだの？
フレーベ王
お戻りになられたのでございますか？
ここで何をしている？
はい
皆で相談を致しまして……
陛下がお戻りになられるまでにこの国をもっと大きくもっと立派にしておこうと
こうして穴を掘り続けてございます
魔神どももかように堅牢な都ではそう易々と攻め入られんでございましょう

ゆっくりと
休め
そうか…
だが
もうよい
苦労を
かけた

相も変わらん
言い種だな
ファーン
お前が暗い顔を
してどうする？
心中さこそと
お察しする
見事本懐
遂げられよ
やってしまえ
やってしまえ
どうせ片付けねば
ならん相手だ
その言い種も
お前らしい
どうやら
本復の様子
おめでとう

そのようだ
これは乱戦になるな？
くッ…来る…ぞ
ググルル
陣を解け！
魔術師は身近の戦士に対抗の呪文を！
戦士は各個に撃破！
マイリーの神官！
おう！

戦いの呪歌！
深き心をつくし
古き言葉をさぐりて
軍神の世にありし
時代を
思いおこさん
軍さの神の唇より
朗々の調べの
流れ出た
その日を
「強剛力士の
いづくにやあらん」
その呼びかけに
応と立ちいざさらば
我も歌わん

戦いの呪歌！
深き心をつくし
古き言葉をさぐりて
軍神の世にありし
時代を
思いおこさん
軍さの神の唇より
朗々の調べの
流れ出た
その日を
「強剛力士の
いづくにやあらん」
その呼びかけに
応と立ちいざさらば
我も歌わん
軍装もはなやかに
青銅の大戦車に
その身を運ばせて
世界をどよもす
勇壮なる詩なかに
霊肉の二つを
浴したり
譬えんにものなき
荘厳のまた神秘の
楽声に労苦は失せつ
壮大なる血気の巡り
充ち満ちて
呼吸かろく
烈火の如くあきらけく
祝祭のごと輝かしく
さやばしる剣に
勝利を乞いつ
かくてこそ
凶険無道の敵人も
我らが足下に
ねじ伏せられん
いざさらば
我も歌わな
猛りどよめく
血潮のままに

譬えんにものなき
荘厳のまた神秘の
楽声に労苦は失せつ

壮大なる血気の巡り
充ち満ちて
呼吸かろく
烈火の如くあきらけく
祝祭のごと輝かしく
さやばしる剣に
勝利をこいつ

かくてこそ
凶険無道の敵人も
我らが足下に
ねじ伏せられん

いざさらば
我も歌わな
猛りどよめく
血潮のままに

軍装もはなやかに
青銅の大戦車に
その身を運ばせて

世界をどよもす
勇壮なる詩なかに
靈肉の二つを
浴したり

負傷した戦士！
疲弊した魔術師は
私のもとへ！
神官！
癒しを！
ぐあ！
怯むな！
気圧されたら
負けだ!!
だっ…
駄目だ！
また一人

よし！
あの娘に続け!!
な…何だあの娘？
蛮族の女戦士か……
凄まじい戦いぶりだ

さあ
立ってこちらへ
来て貰おう
その玉座は
貴様などが
座ってよい
場所ではない
わしだ
憶えて
おろうな？

何だ
それは？
何の真似だ？
この身から
最後の血の一滴が
失われようとも
それで
わしの気を拉ぐことは
出来ぬぞ

ファーン
こっちはあらかた片付いた
高見の見物か？
一国の王が玉座を賭けて戦っている
その通りだ
手出しは出来んよ
感謝するぞ
聖騎士よ
なるほど
ひと太刀で決まるなこれは
我々ドワーフは無駄に斬り結びはせん

見ているが
いい
石の王国
最強の戦士の
戦い振りを

さらばだ
ド！

天井が…？
崩れ落ちる!!
行け
玉座の裏の扉から大路に出られる
ではあなたも
真っ直ぐ走れば王国の出口だ

案ずるな
愚かな真似は
せんよ
死に場所ぐらいは
心得ておる
感傷では
ないがな…
だが
最後の王として
王国の最期を
見届けたいのだ

これだけの廃墟だ
やがてガーゴイルや土竜(アースドラゴン)たちが格好の棲み処(すみか)にするだろう
ゴゴゴ
ひとつの国の終焉(しゅうえん)か…
凄まじいものだな
威容を誇った石の王国も
年を経(へ)ずロードス最大の亡霊都市と呼ばれるようになる

さあさあ
食事だ
ライデン一番の
戦士にして料理人の
この俺が
どんな怪我人でも
あっという間に
元気になっちまう
料理を作ったぞ！
並んだ
並んだ!!
角傷者は
その場に！
癒し手が
手分けして
回ります！
各テントから
二名ずつ
食事が済んだら
私のところへ
来て貰いたい
交替で歩哨に立つ！
いや…
このぐらい
どうという
ことは
どうだな
傷の具合は？

痛むのは ここかね？
イギャ〜あ
ああ 心配は要らん
私はね 宮廷付きの薬師だったんだ 腕は確かだよ
いや… そうではなく その…
もしお手空きなら ニース殿に お願い出来んかと…
おお そうか なるほど
ではニース殿には 私から傷の具合を 報告しておこう
どうだ ウォート？
負傷者は三十四名 内 重傷が八名
七名が戦死者だ
既に七人か…
痛いな
まあ これだけの 手勢で石の王国に 残っていた魔神を 一掃したんだ
上出来と 言わねば なるまい

隊長殿！
どうしました？
参りましたよ 兵糧攻めってやつでさ
あいつら 食料に呪いを かけてやがった
魔術師に呪いは 解いて貰ったんだが 殆んど腐りかけてて 使えンのは三分の一 しきゃねえ
やって くれるな…
わかりました
それまで何とか 保たせて下さい
最も深き迷宮に 着くまでには 補給が受け られるよう 手配します
はあ

済まない
頼む
呪いにも
いろいろある
からね
他の携行品にも
呪いがかけられて
いないか
ひと渡り
調べる必要が
ありそうだ
見たか？
何をだ？
あの二人
昼間の
戦い振りをさ
ああ
マーモの
蛮族戦士
だろう
ファリスの
神官だよ
あの女性の
方さ
神聖王国の
ファリス神殿
神官戦士長だ
え？
まさか…！
あの娘が!?

フラウス殿
何か？
貴女から直かに
伺いたいと
思っていたことが
あります
私は
アダンの待祭を
お務めだった頃の
貴女を知っている
まこと
フラウス殿は
至高神の
遣わされた
戦乙女だ
私たちアダンの民は
誇らしく思った
ものです
聖戦の
御旗だと…
貴女が魔神との
戦いの最前線に
いつもおいでだと
聞いて
なぜ神官衣を
捨てられた？

ファリスに蛮族は似合わんとさ
神官衣は信仰の証になりますまい
私は戦いに相応しい装りをしているだけ
いえ そういう訳では…
でも…その戦士殿も？
寝惚けたことを言うな
俺は魔神どもに恨みはない
賞金首でさえなけりゃ適当に折り合いをつけて仲良くやるさ
マーモでのようにな
私はね…
魔神を敵として戦っているうちに
彼等のどこが私たちと違うのかと思うようになったのです

魔神の起源は
いつとも知れず

どこで
生まれたのかも
定かでは
ありません

神々の大戦では
暗黒神に
与していたと
いいます

人間とは異なる肉体
異なる血をもって生きる
邪悪の物怪

ですが
人と魔神は
それほどに違うもの
なのでしょうか

人間は
ドワーフの財宝に
目が眩んで
石の王国を襲撃
しなかったとは
言いきれず

黄金樹の恵みを
我がものにする為
エルフたちに仕掛け
なかったとも
言いきれません

もし魔神の目的が
ひたすらな破壊で
あったとしても

欲や野望に狂った
人間の行いは
彼等と何にも
変わらないでしょう

現に野心の為に魔神を
召喚したのは人間に
他ならないのですから

そう考えることが
至高神の
思し召しに違うと
言うのなら

では
貴女は…

魔神に何を
見出して
闘っておられる？

そうだよ
その通りだ
とも
フラウス
釣り合いとは
良く似たもの同士で
なければ
とれぬもの
私は
ずっと…
心の中の
暗愚の化身と
闘っている気が
していました
支配の魔法と
血塗られた剣
そして
人と魔神の
ようにな

ズル
ズル
ズル‥
カラカラ
ズル

カタカタ
カタカタ
聞かれん先に
言っておくがな
これは…
武者ぶるいだろ？
俺もだ…
あれが
魔神王の居城だと
思えばな…
みんな
同じさ
怖くねえ奴
なんか
いねえよ
ピクン。。
ん？
竜笛だ
今夜はここに
野営しよう
「最も深き迷宮」が
目の前では
ゾッとせんが
中に入ってしまって
からは
ろくに休息も取れ
ないだろうからね

何だ？
何も聞こえんぞ

マイセン公！

マイセン公！

やめてくれ
ファーン卿
今日の私は
ただの
補給部隊長だ
おお　そうだ
貴公たちに客人を
お連れしたぞ
エンディカ
……
ウォート
無理を言って
連れて来ていただき
ました
あなた方の
勇ましい姿を
この目で見る為に
見て 歌に残す為に
……

何だ？
着替えたのか？
公にご挨拶を
武装のままでは失礼でしょう？
ふん 俗気が抜けんな
王族の前ではいい恰好をしたがる
なりふり構わず闘うのと礼儀知らずは違うわ
人の上に立つならそのくらいは弁えて
支配者になるかどうかは俺が決める
お前こそ玉輿にでも乗るつもりか？
それもいいわね
もし生きて帰れたら

見ろよ
凄いものだな
うむ
生きて動いている
絵姿でない古竜など
初めて見る
よい冥土の
土産に…
ボコ
ボコ
報告です
ヴァリス神聖王陛下
への手紙も　これに
そう言ってくれると
嬉しい
ファーン卿
後は帰還した
折り
いずれ…
楽しみにしておこう
貴公らの武勇伝を
貴公の口から
聞くのをな
そう誓っておかねば
不安なのです
幸い石の王国から
ここまで一度も
魔神たちと遭遇することは
ありませんでした
だが今や魔の気配は
厳となって私たちを押し
潰さんばかりだ
それは我々にしても
同じことだよ
みんな自分の恐怖と
戦っています

一時ほど頻りにではなくなったとはいえ
未だにロードス各地で魔神どもの襲撃が絶えん
皆倦み疲れ始めている
もういい もういいじゃないかと誰かが言い出すのを恐れているのさ
だが今は楽しめ
我々モスの竜騎士団と金鱗の竜王がこうして見張っているのだからな
もし魔将が現れても貴公らが夢の間に片付けてくれるわ

ズル
ズル

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ..
ハァ
ハァ

ハァハァ
ドクン
ドクン
ハァ
ドクン
ハァハァ
ドクン

我々はこれで
戻るが…
こちらでの魔神掃討は
任せて貰いたい
諸君らの帰還する場所が
魔神どものいない地上で
あると約束しよう
私たちも
必ずや魔神王を
討ち果たすと…

我々はこれで戻るが…
こちらでの魔神掃討は任せて貰いたい
諸君らの帰還する場所が魔神どものいない地上であると約束しよう
私たちも
必ずや魔神王を討ち果たすと…
武運を祈っている！
行ってしまったな…
俺たちも行くとするか
さっさと済ませて戻ろう

行って
しまったな…
俺たちも行くと
するか
さっさと済ませて
戻ろう
武運を祈って
いる！

迷宮の中じゃ
美味い酒にも女にも
ありつけそうにないからな

迷宮の中じゃ
美味い酒にも女にも
ありつけそうにないからな

これが最も深き迷宮…
まるで都市だ
いや砦の廃墟か…
そのどちらもが正しい
外からは無用の侵入者を排除する砦
内には魔神どもを物質界に止めおく為の俘囚の都だ
物質界？
では魔神は実体でないと…？
勿論実体だよ こちらではね
なればこそ武器で倒すことも出来る

これが最も深き迷宮…
まるで都市だ
いや砦の廃墟か…
そのどちらもが正しい
外からは無用の侵入者を排除する砦
内には魔神どもを物質界に止めおく為の俘囚の都だ
物質界？
では魔神は実体でないと…？
勿論 実体だよ こちらではね
なればこそ 武器で倒すことも出来る
だが もともと 彼等の故郷である 魔界は
私たちの物質界とも 精霊界や妖精界とも 異なる異世界だ
その魔界を発見し 召喚して使役する方法を 見出したのが
この迷宮を造った 古代カストゥール王国時代 最高の召喚魔術師 アズナディールだった
魔神を呼び出して 使うなど 最高とは思えませんね
魔神王さえ 召喚したという意味で 言ったんだよ
でなければ 魔神を統制するなど 出来る話ではなかった

だが　もともと
彼等の故郷である
魔界は
私たちの物質界とも
精霊界や妖精界とも
異なる異世界だ
その魔界を発見し
召喚して使役する方法を
見出したのが
この迷宮を造った
古代カストゥール王国時代
最高の召喚魔術師(コンジュアラ)
アズナディールだった
魔神を呼び出して
使うなど
最高とは思えませんね
魔神王さえ
召喚したという意味で
言ったんだよ
でなければ
魔神を統制するなど
出来る話ではなかった

魔神たちは強力な魔法使い(ルーンマスタ)で戦士だ
古代の魔法建築の幾つかは異質の魔法文明を持っていた魔神の手によるものだったと言われているし
魔神王を倒す方法はあるの？
あるだろう恐らく「魔神王の書」に倒すか再び封印する方法が…
古代王国にとって脅威だった巨人族を滅ぼしたのも魔神の兵団だそうだ
だがスカードの太守に奪われた強力な魔法で括(くく)ってあったよ
古代王国繁栄の一翼は魔神が担(にな)ったと言ってもいい
もうひと息で読み解けたのだが…
今頃は魔神王の間に打ち捨てられているか灰になっているか
この迷宮の最も深き処にあまりにも大きな負の遺産を残しはしたがね
いずれにしても魔神王には必要のないものだからね

仮にその方法を
知っていたとしても
ここで教える訳には
いかない
誰が聞いているかも
わからないからな
何!?
おい…?
ルード?

混乱するな
同士討ちに
……
気をつけろ！
不可視の暗殺者(インヴィジブル・ストーカー)だ!!
ちくしょう！
どこだ!?
そこ！
!?

昔　魔術師の館跡を
親父と探索していた時
出会ったことがある
皮肉なものさ
親父の血飛沫が
かからなけりゃ
こいつの姿は
見えなかった
魔神なのか
…？
いや　恐らく
迷宮の番人
だろう
私たちがここで
気をつけなければ
ならないのは
魔神だけではないと
いうことだよ
遺体は？
どうする？
ルードは
ラーダ神
オラフは
マイリーだ
誰か
彼等が信仰していた
神を知っていますか？
神官は
祈りを

祈りが済んだら
先へ進みましょう
気の毒だが
ここに
措くしかない
我々に出来ることは
せめて屍使いの手に
かからぬようにする
だけてす
たとえ　倒れたのが
私てあっても
そのようにして頂く
戦場ての決まりてす

おい
来てくれ
ここに怪しい
紋章があるぞ！
早過ぎるな
どこかに向こう側へ
抜ける仕掛けが
ある筈だ
行き止まりか…
これが
仕掛けじゃ…
触れるな！

発火の呪文だ

以後　怪しい場所を
見つけても
盗賊か魔術師が
検分するまで無闇に
手を触れぬことだな
中には魔神の只中へ
飛ばしてしまう魔法の
象形もある
ゴキ
ギギ
ゴゴ
ギ

開いた
……ぞ

開いた
……ぞ

中央の塔の最下層が
ロードスの
最も深き場所だ
そこはもう
この世ではない
だが進まねば
魔神王には
会えん
よく調べ上げた
ものだ
荒野の賢者よ
では なぜ
行かん？
見るがいい
あの紋章……
スカードの兵士か!?

なるほど
橋のあそこから先は
幻影だという訳か
だが俺たちは
ここに来るまで
他に道を見つけ
られなかった
そしてスカードの太守は
渡りおおせた
俺たちに渡れんと
いう訳があるか？

ど…
どうしようと
いうのだ？
二、三人
放り込んでみれば
わかるさ
ベルド
それは出来ない
馬鹿か
お前は
言ってみた
だけけだ
ウォート
魔法で見破れん
のか？
出来ないことはないが
恐ろしく魔法力を消耗
するだろう
こんな所で魔法を
使いたくないと言ったら
冷たいと思うかね？
もっとも　あんたが
最初に渡るんなら
そんな必要もないと
思うが……
チッ！
わかったよ
どうなさった
のです？
先ほどの
ベルドの提案
あれは冗談に
聞こえません
でしたよ
ええ
でも本気だったら
口に出さず
そうしていたと
思うわ

どうなさったのです
フラウス

さっきから誰かに
見られている気が
……

黒いグリフォン!?
見たことがあるぞ
鏡の森を襲った…
あれは
魔神王の騎獣だ！

射手は前へ!
射て!!

ウォート！
こいつも魔法武器しか
効かんのか!?
は…
弾き返す!?

魔術の根源
万物に遍くマナよ
閃光は我が杖に
寄り来たり
始源の巨人の咆哮と
化りて　我が指すところを
撃たん
アトアナ
アトラ
エム
ヴェイガス！

グエエ!

スカードの連中が
使った綱か……

奴のおかげで
渡ることが出来たよ
そこまでは俺の足跡を
辿れ
そこからは一人ずつ
綱を伝って
来るんだ
弓兵!
あの剣の位置から
対岸に綱を射て!
後は婦人
身軽な者から
一人ずつ渡る!

食料が尽き
かけている
水もだ
俺たちは戦いに
来たんじゃ
ないのか？
ここに来て
もう
幾日になる？
だが　その
魔神すら
姿を見せん
食いものが
無くなったら
魔神の肉でも
喰らうか
何処かじゃ
困るんだよ！
ここが迷宮の
一番底なんだろ？
おい　みんな！
荷をまとめろ！
ここに魔神は
いねぇ！
いる
この何処かに
え？
魔術師殿よ

あの魔神どもに
王なんて…
さあ
太陽も月も星も
見えんからな
だが　めっきり
老けこんだのは
確かだ
実際のところ
魔神王なんて
本当にいるのか？
何を…
騒ぐな
魔神どもの
思うつぼだぞ
奴等の味方を
する気か？
いつ
入れ替わった？
それとも…

ぐあア!!
ナ!
ガッガ!

上位魔神の群れ
だぞ
起きろ
フラウス
いつまで
寝てやがる
待て！
起こすな
死ぬぞ

上位魔神（グレーターデーモン）の群れだぞ
起きろ フラウス
いつまで寝てやがる
待て！
起こすな
死ぬぞ

とうとう私にも
死神が見えるように
なったと言うの？

死神ではない
嵐を駆る者(ストームライダー)だ
だが その男にとっては 同じであろうな
殺させないわ
何故だ ファリスの乙女よ
それでは そなたの 信ずる神の教えに 反しよう
その男が 永らえれば この先多くの死者が 出るぞ
では このロードスを 今のままで放って おけと言うの？
魔神どもの 脅威に屈し 機に乗じて権力争いに 余念のない支配者たちの 欲しいままに？
ほう
ヴァリス王やモスの マイセンを権勢の亡者と 呼ぶか？
違う！
でも ……
魔神戦争に 勝利した暁には もっと大きな力が…

この男を支配者にしようというのか？
私がベルドを善き王に…
笑止！
そなたがこの男に抱いているのは王の理想ではない！
彼の体に染みついた人と魔神たちの血が光の道を歩むことを是とはするまい
恋だ…
ファリスの乙女よ…
獣と魔神の血脂にまみれ殺戮の為に技を磨き
それでも　まだ女であろうとするか？
ならば見るがいい

己の姿を…

いや…
どちらが本当の「私」であろうな？
美しいぞ
フラウス
よく似合う
！

いや…
どちらが本当の「私」であろうな？
美しいぞ フラウス
よく似合う
！

ゼオ！
こら　ゼオ
どこかァ!?
はッ…はい
父さん！
父さんではない
先生と呼べ！
インクが切れたぞ
早う新しいのを
持ってこんか！
はい！
ゼオリコス・フラナドス・
エン・トゥス・レジナルド
三世！

ゼオ！
こら　ゼオ
どこかァ!?
はッ…はい
父さん！
父さんではない
先生と呼べ！
インクが切れたぞ
早う新しいのを
持ってこんか！
ゼオリコス・フラナドス・
エン・トゥス・レジナルド
三世！
はい！
父…
先生
ここは危ないよ
ム!?
このベオリコス・フラナドス・
エン・トゥス・レジナルド二世
ドワーフの歴史家として
世紀の一戦に立ち会うた
幸せを今
噛みしめておォる!!
たわけめ！
戦を記録する者が
安全な場所におって
どうする！
前線へ！
前線へェ!!

父…
先生
ここは危ないよ
ム!!
このベオリコス・フラナドス・
エン・トゥス・レジナルド二世
ドワーフの歴史家として
世紀の一戦に立ち会うた
幸せを今
噛みしめておォる!!
たわけめ!
戦を記録する者が
安全な場所におって
どうする!
前線へ!
前線へェ!!

人を…
馬鹿にして…
馬鹿にして…

ああ
舞踏会が始まった
でも…

貴女は…
困ったわ
こんな格好じゃ
お城には
行けない
だから私と
ここで踊って

本当は
神官戦士なんかに
なりたくなかった
兄様！
シェノ ト兄様
夢だったの

どうしたんだ
フラウス
その傷は？
ジェナート
この娘にもう少し
やかましく
言ってちょうだい
今日も中庭の木に
登っていて落ちたの
ですよ
そのお転婆ぶりじゃ
将来は神官戦士
かな？
そうだいっそ
女隊長を
目指すといい
うん！
私はこのまま
ファリス神殿と
戦場しか知らずに
年老いていくの
それが
私の人生
でも私が捨てられて
いたのが
神殿じゃなくて
貴族の館の前だったら？
ここにいたのか…
ジェナート
…兄様？
本当なの？
私が神殿の前に
捨てられていたって…
兄様とも本当の
兄妹じゃないって

フラウス
お前は誰の子かと
聞かれたら
ファリスの子だと
答えるがいい
お前の家族が誰かと
言うなら
この神殿に仕える
みんなだ
でも
そんなのは嘘
私はただの
人間の女
魔神と戦うのだって
恐ろしくて堪らない
こんな処に
来たくなんて
なかった
ファリスの護符
です
今日魔神に
襲われた村で
これを握って死んでいた
親子を見ました
何故こんな物が
必要なのです！
何故あの村の
分教院から
魔神を見たと
一報のあった時
私一人でも行かせて
いただけなかったの
です!?
魔神王を前にして
ファリスは私を
助けてくれる？
ファリスを
信じた人は
誰も死ななかった？

至高神の神官戦士が魔神に敗れることがあってはならんのだよ
そして神官戦士団の中にまだ魔神と相対したことのあるものはおらん
では私が最初の一人に…！
それでよかったのかしら？
ベルドの所へ行ってごらん あんまり綺麗なんできっと腰を抜かすよ
ほぉら似合った！
思った通りだわ
見て
あの赤髪の蛮族の男さえ虜にしたというのに…
あの蛮人の厚い胸を獣のような息を感じて
それでも私は彼をただの戦友だと思える？
あの血の熱さに冷静でいられる？
私は綺麗じゃない？
ロードスの民みんなの王だと？

ベルドは沢山の女を
知っているわ
私だけじゃない
そう思って
傷つくのは
いつも私だけ
では何故彼は
私とこんなに長い
時を一緒にいるの？
考えたことは
ない？
ひょっとして
彼も私のことを…
そう思ったことは
一度も？
マーモに渡って
番の狼のように
暮らしながら
幸せだと
思ったことは？
そう思ったことは？

人の心を
玩んで…
やっぱり魔神は
邪悪だって…
思ったわ

ベルド…
扉が…
扉が開いた…

ウォート！
ファーン！
行け！
ここは俺たちが…！
あなたたちだけでも
行ってくれ！
行くぞ
ニース
お前もじゃ
仮面の魔法戦士

魔神王…

魔神王…

…いや
会いたいとは
願っていたが
これほどとは
意外だな
会うことが目的だった
ニースでいられ
なくなるから
心を読もうとしては
駄目よ
ニース
みんな仕度を
精神と体の力を
一時向上させよう
あんたも
手伝ってくれ

倒す方法は
あるのか？
さあね
あっさり
言いやがる
倒した者が
いないから
魔神王はそこに
いる
封印の方陣も
完全な形が
失われて久しい
やってみるしか
ないという
訳ですね
無謀な突攻は
好かんと…
今でも
そうだ
行くぞ

災いの根源は
そこにあり
呪いの源

姿は黒髪の
童女なれど
そは　ただ皮相の見に
止まるのみ
闇深き
魔宮の奥底
玉座の主こそは
魔神の王
天地を繋ぐ閃光の矢
宙駆ける獣の牙

闇深き
魔宮の奥底
玉座の主こそは
魔神の王
姿は黒髪の
童女なれど
そは　ただ皮相の見に
止まるのみ
天地を繋ぐ閃光の矢
宙駆ける獣の牙
いかにぞ
彼が魔神王
なること
あらん
雷撃よ
万条の雷よ
万象の因なるマナの
法に従いて
我が指すところの者を
囚うる牢獄と化らん!!
!
その瞳の暗き
ゆえに
その魂の昏き
ゆえに

万象の因なるマナの
法に従いて
我が指すところの者を
囚うる牢獄と化らん!!
いかにぞ
彼が魔神王
なること
あらん
雷撃よ
万条の雷よ
その瞳の暗き
ゆえに
その魂の昏き
ゆえに

効かぬか！
…やはり
その持てる力の
邪神にも伍す
ゆえに
効かんと
決まった訳でも
あるまいが…
なおざりな戦いは
なるまい
次は大魔法になるな

ゴホッ
ゴボ..
さすがに
聖なる武具
ファーンはよく
凌いでいる
他の者には先に
魔法の結界を
張った方が
良さそうだ
悪いが盾に
させてもらうぞ!
おう!

魔力の結界か
有り難い！
待て
ファーン！

魔神…!?
自らの血で産んでいたのか……
道理で魔神どもの数が尽きぬ訳だ
邪神に匹敵するどころではない……
これでは…まるで
…始原の巨人
待て…

神聖なる御名の
遍く天地において
祝福されざるものよ
汝の拠るべき
世界へ…
疾く去れかし！

ええい
きりがないわ！
ウォート！
手はないのか!?
き…
傷つけるな
ではどうやって
倒す！
魔神王の血の最後の
一滴まで切り刻めと
言うのか！

慈悲深き地母よ
恵みのマーファ
大地のいつくにも在ませど
別して威光を顕し彼の者の肉の身を癒したまえ

みんな！
その剣で傷を負わないで魂が砕かれる！
チ！
怒らせちまいやがった
どうすればいい!?
傷を負うな負わせるなでは結着がつかん！

次は大魔法に
なると言ったが…
ニース
知って　なお
助力を求めるか？
それに古代王国の
魔術師よ
古代王国…？
この場の敵でない
ことは承知している
今はあんたの純粋な
魔法力が頼みだ
万物の根源
万象の因なるマナ
私に魔力で同調
してくれないか
万物解体の法を
使う
この世に形成すは
すべからく汝の自ら
果たせる業ならずや

業の中にいと奇しきは
千と千と千の彩なす
色で成れるもの

且つは成す力

……！

千古不易の巌なりとも
マナの交わり断てる時

浮かべる雲に
等しうして
やがてあとなし…

今ぞ…

マナは原初の混沌に
還らん

成れるものは
極微の塵芥に
帰す…！

やったのか!?

消滅！
あ！
ド

ウォーー!
な…情けない
話だ
私が教えを乞う
破目になろうとは
だが渾身の魔法が
通じなかった今
私には二の手が
ない…
あんたはカストゥールの
残光
魔神を召喚し使役した
魔法文明の証言者だ
お…教えてくれ
喋っては駄目!

剣か…
強靭(きょうじん)な生命力を誇る
魔神の中にあって
魔神王の王たる所以(ゆえん)は
不死だからだ
魂砕き(ソウルクラッシュ)…
魔神王の剣…!?
なぜ
あれを滅ぼせない？
なぜ
あれは未だ剣を
揮(ふる)っていられる？

なぜ
あれを滅ぼせない？
なぜ
あれは未だ剣を
揮っていられる？
強靭な生命力を誇る
魔神の中にあって
魔神王の王たる所以は
不死だからだ
死に瀕する傷を
負いながら向かって来る
魔神といえども
死なん訳ではない
だが魔神王は
違う
神々の大戦で
暗黒の神に与し
敗れても　なお
永らえた
その肉の身を
滅ぼされたとしても
転生憑依を繰り返す
魂を葬り去ることは
出来ない
その魂を砕かぬ
限り…
剣か…
魂砕き…
魔神王の剣…!?
だがどうする!?
奴から無傷で剣を
奪えというのか
組打ちなら
どう？

死に瀕する傷を 負いながら向かって来る 魔神といえども 死なん訳ではない
だが魔神王は 違う
神々の大戦で 暗黒の神に与し 敗れても　なお 永らえた
その肉の身を 滅ぼされたとしても 転生憑依を繰り返す 魂を葬り去ることは 出来ない
その魂を砕かぬ 限り…
だがどうする!? 奴から無傷で剣を 奪えというのか
組打ちなら どう？

光は七つ
ひとつは聖戦士
白きファーン
私の後ろへ！
うつつなき眺めなるかな
古怪なる鬼物の
夥しき返り血さえ
白銀の輝きを損う
ことなし
ファリスが嘆くぞ
俺と同じことを
考えてるようではな
走るぞ！
天上の神火
人の姿に凝りて
騎士とあらわれ
たるか
いまや醜悪絶類な
怪物と顕われたる
魔神王は
暗闇を裂く光
かぎらんと
暗黒の剣を揮うたり

ひとつは戦士
蛮人ベルド
戦場の風に
炎の髪たなびかせ
月下に剣舞す
王なき世の王
その心は知らず
往くところ
血風(けっぷう)烈しく吹きつのり
暗黒は高く来たるかな

傷つけた！
ニース
癒しを！
ひとつはドワーフ
亡ぼされし石の国
その終いの王
フレーベ
時経りて
金石の
やがて泯ぶとも
復讐の戦斧の
錆びることなき
ひとつは司祭
大地母神が愛児
ニース
私とした
ことが…
あんな少女たちの
足手まといに
なろうとはね…
ひとつは魔術師
世界を識る者
荒野をゆく賢者
ウォート
人ながら
女神の神魂宿りしを
いかにかして疑うべき
芳しの花に水やる手は
かえりて魔を絶つ
名剣とならん

足手まといに
なると言うなら
もしもの時に奴と
差し違える命は
取っておいて貰おう
生きて帰ったら
賢者の仇名は返上だな
さて…
彼らを援護
しなければ
ひとつは魔法戦士
呪われし島を
憂う者
古き言葉をさぐれども
遠き心は知りがたし
真の名は
仮面の下にひそみて
それさえや
人に告ぐべき

私が決めたのに……私がベルドを
光は七つ
最後は乙女
ベルド…？
また私がかばわれたの？
駄目…
人の子フラウス
ロードスの王が失われる…
ベルドが死ぬ
守るって決めたのに…！
夢見つつ
ものおもいつつ
生きた娘

と…
奪った…！
よくやった…
俺の女よ

いかん！
あのままでは…
至高神（ファリス）…
ファリス…
いずこに坐（おわ）す？

何をなさって
おいでだ…
至高神
光の神と
讃えられながら
ただ天上から
人間の戦いを
座視あそばす
御心か…
私は…
私はあなたを…
私は
あなたを
叱咤する！
ファリィィス!!

何をなさって
おいでだ…
至高神
光の神と
讃えられながら
ただ天上から
人間の戦いを
座視あそばす
御心か…
私は…
私はあなたを…
私は
あなたを
叱咤する！
ファリィィス!!

だが　私は
理想について
語らねば
なりません
まだ
実を結んではいない
夢について…
偽善と嘲笑され
そんな光に満ちた
世界など夢物語だと
謗られ
私自身は
どうなのかという
問いを
真っ向から受け

だが　私は
理想について
語らねば
なりません
まだ
実を結んではいない
夢について…
偽善と嘲笑され
そんな光に満ちた
世界など夢物語だと
謗られ
私自身は
どうなのかという
問いを
真っ向から受け
夢を語る者が
真に美しく
喜ばしいものの探究者が
いなくなったら
どうするのだと
問い返しながら
私は地に墜ち
惨めでつまらない者
だからこそ
語ることができる
美しい世界を
夢見よう
善き世界を
つくろうと
そしてその意味を
共に考えようと…
ね？
ベルド
ファーン

夢を語る者が
真に美しく
喜ばしいものの探究者が
いなくなったら
どうするのだと
問い返しながら
私は地に墜ち
惨めでつまらない者
だからこそ
語ることができる
美しい世界を
夢見よう
善き世界を
つくろうと
そしてその意味を
共に考えようと…
ね？
ベルド
ファーン

あ…あの
おねえちゃんたち旅人？
あ…
ごっごめんなさい
鏡の森から…？
大丈夫だよ
怪我はなかった？
いいえ
どうして？
今日は聖フラウス様の祝祭日
知ってる？
聖フラウス様と六英雄はこの村に居たことがあるんだよ
でね
僕は魔神戦争のお芝居に出るんだ
本当は魔神なんか演りたくなかったけど意地悪アビィがフラウス様を演るから出ることにしたの

その時から
黄金樹の復活祭を
聖フラウスの祝祭日
として
鏡の森のエルフと
近隣のドワーフが
この村で私たちと共に祝う
ようになったのです
永い間
いがみ合っていた
ドワーフや
人間たちとね
仲直りを
させたのですよ
でも　なぜ
私を鏡の森の
エルフと？
エルフとドワーフと
人間が…？
信じられない
……
ご好意に甘えて
いかないか
ディードリット？
俺もこの目で
見ておきたい
エルフとドワーフと
人間たちが
笑い合う姿を
おかしいわ
素敵な人間の男性と
旅している貴女が
おっしゃるのは
先をお急ぎで
なければ
今夜はゆっくり
していおいでなさい
人間を愛して
くれるエルフは
とりわけ歓迎
してよ

どうした？
ハイエルフの歌が…
何て…
きれいな声
ええ
そうねパーン
マリエルおばさんはエルフから歌を習ったんだよ
フラウス様や六英雄の人たちと話したこともあるんだ！

もろもろの想いの果てよ
今はとて
かえるすべなき
ただ
そよ風の吹きかよう
のみ
今は　はや
過ぎにし日々は
かくも遠きか
どうした？
ハイエルフの歌が…
何て…
きれいな声
マリエルおばさんは
エルフから歌を
習ったんだよ
フラウス様や
六英雄の人たちと
話したことも
あるんだ！
ええ
そうね
パーン

もろもろの想いの果てよ
今はとこ
かえるすへなき
たた
そよ風の吹きかよう
のみ
今は　はや
過ぎにし日々は
かくも遠きか

しかはあれ
歌人よ
調べ悲しく
歌いたもうな
そは
神々の大戦の
申し子
我らが故郷
愛おしき
ロードスが地の
歌なれば

《初出》
「コミックニュータイプ」1996年冬号、1999年春号掲載
「ザ・スニーカー」1999年6・8・10・12月号、
2000年4・6・8・10月号、2001年2・4・6月号掲載

ニュータイプ100%コミックス

ファリスの聖女

ロードス島戦記　ファリスの聖女Ⅱ

著者——作画／山田章博　原作／水野 良

2001年11月1日初版発行

発行人——井上伸一郎

発行所——株式会社角川書店

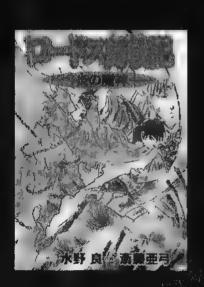
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
営業 03(3238)8530　編集 03(3238)8563
振替 00130-9-195208

装幀・デザイン——BE-ENTO
印刷所——凸版印刷株式会社
製本所——本間製本株式会社

Printed in Japan
ISBN4-04-853419-X C0979

ロードス島戦記
水野良 斎藤亜弓

ロードス島戦記
水野良 斎藤亜弓

Kadokawa Comics A

英雄騎士伝 全6巻

作画／夏元雅人

世界を破滅に導く邪神カーディスの復活を阻止するため、
若き見習騎士・スパークは仲間と共に旅立つ——！

Record of Lodoss War Series

水野良 原作「ロードス島戦記」コミックシリーズ

ASUKA COMICS DX

ディードリット物語 上・下巻

作画／よねやませつこ

自由騎士・パーンと共に戦うハイエルフの娘・ディードリット。
幼なじみのエスタスは、人間と一緒に行動する彼女を
故郷の森へ連れ戻そうとするが――!?

Record of Lodoss War Series

水野良 原作「ロードス島戦記」コミックシリーズ

ISBN4-04-853419-X　C0979 ¥980E

定価：本体980円（税別）角川書店